

6 もやい直しについて

Q1 水俣の美しい海や環境を取りもどすため、市民全体で取り組まれていることは何ですか。

A1 環境を汚さない、自らできることをするということから、ごみの分別に取り組んでいます。水俣市民は病気の発生によって、人と人との関係、自然と人との関係が壊れてしまいました。離れてしまった人々の心をもう一度取り戻すために「もやい直し」を行っています。もやいとは、もともと船がバラバラにならないようをつないでおくこと、共同で作業をすることです。また、水俣病の犠牲となった命に思いを寄せて、水俣再生への願いを込めて種から育てた木を植えて「実生の森」を作りました。

Q2 「もやい直し」について

どうやって昔のきずなを取り戻そうとしているのか。

水俣市ではごみの分別がなぜこのようにできるのか。

水俣の人たちはどのようにして環境を取り戻していったか。

水俣病に関する差別解消に向けた取り組みについて

高度分別(20種類)をしてよくなったことは？その分別をしようとしたきっかけは？

A2 水俣市民は、病気の発生によって人と人との関係、自然と人との関係が壊れてしまいました。離れてしまった人々の心をもう一度取り戻すために「もやい直し」を行っています。もやいとは船がバラバラにならないように船と船をつなぐ、共同で作業するという意味です。

水俣病特有の内面社会や地域社会の崩壊は、簡単に元にもどるものではありません。だからこそ互いの立場を尊重し、共通の目標に向かって協働するという「もやい直し」が必要なのです。

水俣の人々は、再生への思いや考え方の違いはあっても、自らの住む地域を大事に思う気持ちは同じです。舟がバラバラにならないよう、しっかりともやい綱で結び合い、目標に向かって協働で進めていかなければなりません。

また、環境を守るために自らできることは何か、環境を守るためには何をすべきか一人ひとりが考え、行動していかなければなりません。水俣市民は、市内全域でごみの高度分別に取り組んでいます。水俣病のように環境を破壊することのないように、自らできることから始めようとした結果です。環境を破壊して起きた水俣病の教訓を生かし、環境を守り、自然を大切に、互いに思いやる気持ちを持つことにより、環境モデル都市といわれるようなまちになることを目指して努力しているのです。

Q3 私達にできることを考え、実践していきたいが、それにはどのようなことがあるか。

環境モデル都市づくりに向けた小学校の取り組みについて

環境都市水俣の取り組みをくわしく知りたい。また、自分たちでできることを考えたい。

A3 環境モデル都市づくりで水俣市が掲げた取組方針は、「環境配慮型暮らしの実践」「環境にこだわった産業づくり」「自然と共生する環境保全型都市づくり」「環境学習都市づくり」の4分野です。この中で小学生にできる取組は、環境ISOやごみ分別など、省エネ・省資源、リサイクルを実践し、環境に配慮したライフスタイルを日常化して、クリーンなエネルギーの使用に転換していくことを目指している「環境配慮型暮らしの実践」だと思っています。水俣は、環境を破壊して起きた水俣病の教訓を生かし、環境を守り、自然を大切に、互いに思いやる気持ちを持つことにより、環境モデル都市といわれるようなまちになることを目指して努力しています。環境を汚さない、自らできることをするということから、ごみの分別に取り組んでいます。